

JR木次線利活用促進のための「里方駅」新設について

<p>提案内容</p>	<p>私が所属する雲南市老人クラブ連合会木次町支部では、昨年度から「JR木次線存続運動」を支援することを決め、会員に乗車を呼びかけています。</p> <p>JR木次線利活用推進協議会では、乗車料金の補助などで利用促進を図っておられ、先日木次駅から宍道駅まで利用しました。色々対策を講じておられますが既定路線の中で利用者数の増加を図ることは至難の業だと思います。根本的には、人々が沿線地域へ来なければならない要件を増やすことと、定時・早い・楽・快適などの「利便性」を高めることが急務と考えます。</p> <p>そこで、「里方駅」の新設を提案します。</p> <p>この件は、平成初期に旧木次町が木次線の利用促進と斐伊地区の活性化を目的に計画し、JRへ要望した経緯があります。</p> <p>ご承知の通り、斐伊地区、特に里方地区には、雲南市役所、島根県雲南合同庁舎、JA雲南地区本部のほか多くの企業や事業所が集積しており、雲南市の中核的存在となっており、沿線で最も通勤者や訪問客の利用が望める位置です。</p> <p>また、この地区には、平坦地や開発可能地が多くあり、里熊大橋を隔てた下熊谷連坦地とも繋がり、新駅を拠点にした地域活性化事業も期待できます。</p> <p>参考のため、旧木次町の計画では、斐伊交流センターに隣接する水泳プールの線路をまたいだ向こう側で、踏切のある共和自治会集会所の大東寄りの場所で、昇降ホームは2両が停車できる程度の長さで、バス停程度の建物があつたと記憶しています。</p> <p>このようなことは、すでに検討されているかと思いましたが、参考になればと思い提案いたしました。役立ったかどうかをお知らせいただければ幸いです。 以上</p>
<p>回 答</p>	<p>大変貴重なご提案いただき誠にありがとうございます。</p> <p>JR木次線の利活促進につきましては、木次線沿線の自治体等で構成する木次線利活用推進協議会で、3名以上の団体旅行に対する運賃助成や沿線の子どもたちが学習の機会利用できる遠足助成等を行いながら利用者確保に努めております。</p> <p>雲南市老人クラブ連合会木次町支部の皆様におかれましては、昨年度から支部広報誌等での木次線利用の呼びかけや実際にグループでご乗車いただくなどの取り組みを実施していただき、深く感謝申し上げます。今回ご提案いただきました新駅「里方駅」の設置につきましては、ご提案内容にありましており、平成初期に斐伊地区の皆様からご要望があった後、議会等でもご意見をいただいているところであり、利用者の利便性や地域活性化策として効果的な方法の一つであると考えております。しかしながらJR西日本からは、新駅の設置にあたっては、今後、駅周辺部の増加が見込まれ、「駅の利用者が一定程度見込めること」、「駅の設置場所が確保でき、運賃収入や建設費用等の収支見込みが成り立つこと」、「地元住民が駅の設置に賛成していること」が一般的な判断基準となっているようです。こうした条件を木次線にあてはめると利用者数は減少の一途をたどっており、最初にご要望をいただきました平成初期に比べて、年間利用者数は1000人以上減少しており、収支見込みも厳しい状況にあることから、JR西日本からは、現状において、新駅の設置は難しいとの見解が示されています。今後のJRとの検討の中で議論していきたいと考えております。（回答部署：政策企画部うなん暮らし推進課）</p>